

平城宮跡第10次発掘調査終了報告

特別史跡「平城宮跡」の第10次発掘調査は、奈良市佐紀町東大宮、約1200坪を実施した。調査は、昭和27年7月11日に開始し、9月末にはほど遺構復元とその実測、記録作成をおわり、以後埋めもどしあることなく、たが農業耕作等、いたり作業を中心して調査完了は11月27日となつた。

調査地域は、推定「オニ次内裏」地区の北方西部で、昭和29年におこなわれた國営発掘地、西端部より北にあたる。

検出遺構は、苑池1所、建物9棟、門1棟、廻1列、築地2画などである。以下その概略を説明する。

苑池SG500は、今回調査地域の大半を占める広大なもので、南北幅約15m、東西は未発掘地域にひいているが、発掘地域内までさに付帯とはかる。深さ約2mの池底は、ほぼ水平に削平されてゐる。北岸は地山を20度ほどの傾斜で掘りとり、その傾斜面上に30cm程度の玉石や礫を積み上げてあり、南岸は25度ほど、地山傾斜面上に厚さ50cmほど砂か堆積している。この池から南西への井石溝SD503は、幅約1m、深さ約1.8mであるが、うすく黏土

で築きかためであったかも漏水を少せぐかのように入念に埋められており、池との接続部分では、
北岸に堆積した砂がこの溝の埋没粘土上を走っていいる。このことから、こゝ溝は池の造
営当時の排水溝として用いられたものと考えられる。

建物はSB520を除いて、他はすべて掘立柱のもので、北から述べると、SB540は南北2間、
東西9間以上の東西棟建物で、柱間は西茅1間が2.7mであるが、他は3mである。西から
茅7間目より棟通りに間仕切りの小柱穴がある。SB523は、東西2間（柱間各1.8m）、南北4間
(兩端間は2.1m)、中央2間は1.5m)の南北棟建物であるが、南妻柱と足く、それに重複し
て突出する柱がSB510は東西2間（柱間各2.3m）、南北3間（柱間各3m）の南北棟建物である。
SB502は、南北2間（柱間各2.3m）、東西3間（柱間2.7m、3.6m、2.7m）、東西棟建物である。
SB501は、東西7間、南北2間で、四面に庇がつく東西棟建物で、柱間は3m等間である。
SB500は、東西2間、南北5間（柱間各3.9m）、身合の東西に3mの庇がつくもので、SB501
の西半部と重複して検出され、柱穴、重複状況から、SB502がSB501よりのうのものであるこ
とがわが、たゞSB498は、東西2間、南北1間以上（柱間各2.7m）で、SB499は、東西1間、
柱間4.9m、南北5間以上（柱間各2.9m）の南北棟建物である。SB520は、南北2間、東西3間
以上（柱間各2.9m）の東西棟建物で、柱間3.3mの庇が南につくらしい。この建物では、柱穴

から根石狀の玉石が検出されており、小礫石を用いたものとおもわれる。以上9棟の建物うち、S8 540・497・498は、直接地山上に造営されたものか、他の建物は、苑池SG 500を埋立てた後、そり埋土上に造営されたものであつた。

築地SA 488・505は、3.3 m の間隔において平行に走る2条の裏掘り溝の間に、地山かさ、高く残されたもので、発掘地域南部を東西に(488)走り、中央付近で北折(505)して、さうした南築地(505)。西端に近く、東西に3 m の間隔をおく2柱穴とそろ南北に配された雨鳥石状石列からなる門SB 489が検出された。また、西築地(505)の南から約23 m のところで、築地を横断する暗渠中から長さ約2.8 m の断面二字形の木樁が発見された。南築地の南溝は、西築地SA 505の西溝と合流して、さらに西へ伸び、発掘地西端にまで達する。築地SA 498の南、約7 m に東西の柱穴列(柱間各3 m)がある。この柱列は、推定「オニセ内裏」の北をかる築地回廊の北辺凝灰岩雨落溝から北2.7 m の位置にあたる。

以上が今回の調査で検出した遺構の概略であるが、これら遺構は、苑池SG 500と、埋没後その上に造営されたものとに2大別され、後者はさらにSB 501とSB 502の2期にわけることができる。築地SA 505・488は、この2期を通じて存したものともわれる。こゝSB 501と築地の造営は、出土遺物特に瓦類からみて、推定「オニセ内裏」の造営と時期を同じくしたこと

かわがる。従つて、苑池SG500は「オニ次内裏」以前の遺物にかゝるものである。

出土遺物は、瓦・土器を中心としており、特に瓦類の出土は、官衙地区のこれまでの調査（680区の調査）結果に比して量が多く、軒瓦では、推定「オニ次内裏」で検出されたものと同型式のものが多數をしめ、また築地所用と考えられる小型のものも存在が注意される。土器では、これまでの調査の出土品で最も古いものが、天平宝字末年を前後とするものであつたのに對し、それよりもやゝ古い型式の存在が注意された。

出土遺物

瓦

個

軒瓦

三百三十個

軒平瓦

三百十五個

九平瓦

四十三袋

須臾器

六箱

土師器

五箱

七二、炭等自然遺物

若干

才10次登橋構造圖

